

【⑧マレーシア英語研修】研修体験報告書（1）

研修時の 本学の所属・学年・性別	初等教育教員養成課程 2年 女性
研修期間	2019年8月18日～2019年9月9日
研修先の国、研修先・訪問先	国：マレーシア 研修先・訪問先：KDU University College
研修参加目的・動機など	研修に参加する前まで、海外に行ったことがなく、単純に海外に行ってみたかったこと、そして英語の授業に参加できるということで英語力の向上を目指したいという目的で参加を決めた。勿論、日本でも英語の勉強は可能であるが、英語のコミュニケーションが求められる環境に置かれたときの自身の力を試したかった。
研修参加を考え始めた時期	説明会后（2019年5月）
求められた語学力 及び具体的な準備内容	（求められた語学力） 日常会話ができる程度の英語力 （準備内容） 英語習得院での会話練習、ラジオ英会話の視聴
情報収集方法	事前研修での情報共有、世界の歩き方（マレーシア）
居住環境	ユニットバス、トイレ、共同簡易キッチン、浄水機
研修先に持参した方がよいもの	防犯用の鍵（リュックなどにつける）、サンダル、ポケットティッシュ、日本食
物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	比較的安い（1RM=30円、ペットボトルの水→約1RM）
研修の必要総額 （渡航費、生活費を含む）	総額 250,000円 分かる方は内訳も記入してください。 例：フライト料金 60,000円 研修費用 125,000円 海外旅行保険 12,000円 その他（お土産代、食費など）50,000円？
治安状況	比較的安全だが、時々事件が起こっているそう
その他注意すべき事項	なし

①研修によって身についた能力

私はこの研修によって、物事に対する向上心が高まったと感じている。研修中や研修直後にはあまり感じることはなかったが、研修から時間が経過した今そう感じる事が多々ある。

その中の1つが、英語の学習である。今回の研修では、マレーシアの私立大学の敷地内にある英語学校で週5日英語の授業を受けることができた。期間は、3週間で、授業では、ディスカッションやプレゼンテーションなど、様々なことをクラスメイトと行うことができ、学びも多くあった。しかしながら、思うようにいかないことも度々あるのが現実である。私と同じクラスのメンバーには、韓国やタイなど様々な国からきている学生がいたのだが、私とは積極性やスピーキング力がまるで違った。分からないことや要望は先生にすぐ伝えていたし、ディスカッションにおいても自分の考えを積極的に発信していた。このような学生と共に授業に参加したことで、自分の英語能力及び積極性の弱さに落胆することも多かったのである。また、クラスメイトとは授業以外でも夜ご飯を食べに行ったり遊びに行ったりすることができた。その際にも、色々なことを話すことができ、とても楽しかったのだが、自分が伝えたいことを上手く表現できないことも多かった。

これらの経験から、私は悔しい気持ちとともに、もっと勉強をしてコミュニケーションそのものを楽しみたいと思うようになった。これを機に、英語の勉強だけでなく、様々なことに向上心をもって取り組めるようになったのである。例えば、帰国後にラジオ英会話やオンライン英会話等で勉強を始めたり、学校の授業に対する気持ちも向上し、取り組み方も良くなったりしたことが挙げられる。このように、語学研修を経験したことでその後の生活、人生に大きな変化をもたらすことができたと感じている。英語の学習だけに関係することではなく、どんなことであっても、どんなに小さな目標であっても、このことは活かすことができている。「語学研修」という名以上の収穫があり、非常に満足している。

②研修のどういう部分が教員になる上で役に立ったか

教員になる上で役に立ったと思うことは、様々な視点から物事を見つめること、そして多様性を受け入れるということである。これはマレーシアという多文化国家だからこそ実感できたことであると感じている。

マレーシアでは、母語はマレー語とされているが、中華系やインド系など様々な民族の方が共生しているため、基本的には共通語として英語が用いられている。しかしながら、生活の全てが英語というわけではなく、道路標識や看板などあらゆるものに多言語が用いられていた。言語以外の面でも、ハラールフード（イスラム教徒が求律により食べることを許されたもの）はどの店でも表示しているなど、配慮があり驚いた。これらを見て、私は誰もが安心して生活でき、共生しようという環境が整えられていることにとても感動した。

この経験から、日本の学校現場のことを思い出してみると、日本は集団性を重視

しすぎているのではないかと感じるようになった。少し周りと違うと嘲笑の対象となってしまうたり、自分を発信できず窮屈な思いをしたりすることもある。私は、これでは学校という場の意味が無くなってしまおうと思う。様々な人と協働して学び合える、人と関わることを楽しむことのできる環境が整っているからこそ、学校の価値があるのではないだろうか。私は、今以上にそのような環境を整えていく必要があると感じている。その大切さ、必要性を感じた良い機会となった。将来、教員になった際に、今回実感した多様性の素晴らしさを活かして、1人1人の子どもたちが伸び伸び生活できる教室にしていきたい。